


様式第7号

議長	副議長	局長	次長	係長	

環境福祉委員会行政視察報告書

平成28年8月26日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 仁科 文秀  議員 大本 益之 
議員 山本 俊明  議員 原田 てつよ 
議員 樋之津 倫子  議員 馬越 裕正 
議員 蔵本 隆文 

次のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 白山石川医療企業団

住 所	石川県白山市倉光三丁目8番地
電 話	076-275-0070
視察案件	白山石川医療企業団について
期 日	平成28年8月2日(火) 13時30分～15時40分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	公立松任石川中央病院
概 要	昭和23年設立し平成元年に現在地へ移転した。これまでに5回の増改築工事を実施している。地域の基幹病院であり、病床数は305床。がん早期発見から治療までの一貫した診療体制が特徴でPETCT3台・ライナック等高度医療機器を配備。負担軽減のための外来化学療法室もある。

また、PETセンターには認知症研究所を併設し、PIBを用いた検査で認知症発症前の5年・10年前から発見できる可能性が期待される。

予防医学には総合健診センターで対応している。女性専用待合室（ウーマンズルーム）があり、人間ドックは1日60人受入。年間1万人超えの健康診断。

介護を提供する「地域包括支援センターおかりや」は病院併設で第5次増改築で併設。サービス付き高齢者住宅（定員56名）。特別養護老人ホーム（定員29名）。ショートステイ（定員21名）・デイサービス等複合型の福祉施設。全てバリアフリー構造で1人用・2人用居室有り。入居者専用レストラン、ジャグジー付きの展望浴場がある。特別養護老人ホームには自立を促すため共有スペースにキッチンを用意している。

患者向けサービスとして診察カード受付票・受付番号・外来のモニターに番号を表示している。外来のソファは災害発生時にソファベッドとして利用可能で、手当の優先順位で振り分けられるようソファは色分けされている。大部屋でもブースごとに空調が設けられ快適に。入り口パネルの入院患者の名前は通常非公開。回診の際には表示するよう操作。患者7人に対し看護師1人。医師・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカーも加わったカンファレンスを実施。配膳・下膳専用エレベーターがそれぞれ有り。患者サロン・患者図書室設置。

電子カルテシステムは、物流管理部門のSPDシステムと連動し、発注・在庫・消費・帳票にいたるまで、オンラインで行う。データは外部保管している。

地域医療連携ネットワークシステム「まっとう連携くん」は電子カルテや高度医療機器をかかりつけ医等と共用する。連携機関にはワンタイムパスワードの使用を義務付けている。

添付書類	視察資料 ○	視察状況写真 ○	名刺 ○
------	-----------	-------------	---------

【2】 富山県南砺市議会

住 所	富山県南砺市荒木 1550
電 話	0763-23-2222
視察案件	地域包括ケアについて
期 日	平成28年8月3日(水) 9時45分～11時45分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	南砺市議会
概 要	<p>(1) 地域包括ケアについて</p> <p>平成11年に富山県の城端町・平町・上平村・福光町と岐阜県白川村で「南砺広域連合」設立し平成14年10月「公立南砺中央病院」設立した。 ※県域をまたいでの病院設立(全国初)。広域連合は平成18年4月解消。</p> <p>南砺市民病院(※当時は公立井波総合病院)には平成15年に地域福祉支援センターを併設した(訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護・居宅介護支援←ケアプランを作る事業所)。</p> <p>平成18年4月に3病院、4診療所をまとめるため医療局を設置し、平成21年4月に市内医療機関の電子カルテ統合した。このように南砺市では医療の面から医療介護の連携が進んできたため、「地域包括医療・ケア」の推進と呼んでいる。この呼称は国民健康保険診療施設協議会が昔から使っている。</p> <p>平成24年4月に「地域包括医療・ケア局」を設置。平成28年4月から健康課・福祉課・社会福祉事務所もあわせ、「地域包括医療ケア部」に再編。</p> <p>南砺市民病院に隣接する土地に井波高校があったが県立高校の再編計画で廃止。体育館は残し、校舎跡地に地域包括医療ケアセンターを建設中(11月完成予定)。地域包括医療・ケア局の関係課と地域包括支援センターを集約する。</p> <p>平成16年の医師臨床研修制度導入で南砺市も医師不足に。医療の知識を学ぶことでコンビニ受診を解消し、医師の負担を減らそうと「南砺市在宅医療推進セミナー」を平成19年12月から実施。しかし、医療の知識だけではなかなか結果に結びつかなかった。</p>

→平成21年10月「地域医療再生マイスター養成講座」制度導入（住民同士が支え合う自助・互助機能の強化や専門職の養成など、地域で医療を支えるひとづくりを進める）

第1期の受講者は50名。内訳は専門職35名（医師5名，看護師・保健師10名，福祉職10名，診療技術職5名，地域包括医療ケア部（※当時は医療局）5名），住民15名（婦人会10名，女性議員5名）

マイスター講座修了生が継続的につながりを持ち情報交換を行う場として「南砺の地域医療を守り育てる会」が平成22年2月に発足。平成26年7月に「南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会」に改称。各グループでの活動をしている。「なんと住民マイスターの会」では「なんとすこやか なんと安心」というパンフレットを住民目線で作成し，市内全戸，高齢者施設，開業医，公共施設に配布。

訪問看護ステーションは24時間・365日対応。南砺市全域を対応。スタッフ27名。内訳は看護師。PT（理学療法士：Physical Therapist）。OT（作業療法士：Occupational Therapist）。ST（言語聴覚士：Speech Therapist）

「包括医療・ケアワーキング会議」は現在全て同一の部になったため行っていない。部内会議で対応。会議メンバーは地域包括医療ケア局長，地域包括課，地域包括支援センター，在宅介護支援センター，民生部福祉課・健康課，南砺市民病院 地域連携科，公立南砺中央病院 地域連携科，訪問看護ステーション，医療課等。

介護を支える人材の不足については，介護というのは資格がなくてもできることではあるが，社会福祉法人福寿会が主催し，元気な高齢者に介護の現場で活躍してもらうべく，介護職員初任者研修を実施している。今年度は2回（前期後期）。定員20名に対し，15名程度の受講者。

（2）市民病院の在宅医療の取り組み

前南砺市民病院院長の南眞司医師（現在：地域包括・医療ケア局地域包括課顧問）が市民病院にいた際から地域包括ケアに対する取り組みを続けてきたことが基盤にある。

公立井波総合病院（現南砺市民病院）は中山間地のへき地医療拠点病院。そして南砺市は高齢化率が高い（現在35%）。23年度の市民病院入院患者は平均80歳。中山間地域の急性期病院という位置づけ。治療により「治す」だけでなくリハビリ・介護・福祉対応など、多職種で「支える医療」へという骨子を示した。モデルは広島県尾道市立みつぎ総合病院。

※175床で笠岡市民病院と同程度の規模。「治し・支える医療」を多職種で行う。

高齢者は専門機能の連携・統合するケア（チーム医療）が必要。市民病院が担う医療は、1次～2次救急、急性期入院治療、回復期リハビリ、在宅医療（訪問診療）、地域終末期医療・ケア。脳外科等は高次機能病院へ紹介。開業医・診療所との連携も。

常勤医は平成20年度に15名まで減少。地域医療再生の取り組み、研修医の要請で現在は25名を超えている。

医師会と病院等との連携による在宅医療の推進をしている。急性期は公的病院のみ。

（3）地域医療・地域活性化マイスター養成講座について

自助、互助、共助、公助の役割分担をし、「互助」を進めるには、人材育成が重要。そのため、南砺市在宅医療推進セミナーを開催した。しかし、公演を聞くだけのため、「何かしなければいけないのはわかったが、何をすればいいのかかわからない」との声があった。そこで、南砺市地域医療再生マイスター講座を開催した。

※カリキュラムは1時間講義。15分休憩。1時間討論。15分休憩。総括15分。全5回。最終回はひとりずつ抱える問題解決に向けての発表。

さらに、講座修了生が講座受講のみで終わらないよう、継続的に学習し、活動報告をする場として南砺の地域医療を守り育てる会を設立。

6期目から、地域医療・地域活性化マイスター養成講座に改称。5期目までは地域住民の参加は婦人会くらいだったが、自治振興会や地区社協の方にも声

	<p>掛けをしている。守り育てる会も「南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会」に。7期終了時点で310名。</p> <p>なんと住民マイスターの会と五箇山グループで回想法を取り組んでいる。これは、「なんとすこやか なんと安心」パンフレットを作る中で、認知症と向き合いなんとかしたいと思うようになった際、回想法に出会ったから。北名古屋市回想法センター、富山県氷見市の視察や「思い出ガイド養成講座」を講師（下山久之先生）をお呼びし受講することで内容を学んだ。</p> <p>※回想法とは？→思い出を語ることで記憶がよみがえり、心の安定を図る方法。脳が活性化することから、認知症予防や認知症ケアの一つの方法として活用されている。市からは補助を交付している。</p>						
添付書類	<table border="0"> <tr> <td>視察資料</td> <td>視察状況写真</td> <td>名刺</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	視察資料	視察状況写真	名刺	○	○	○
視察資料	視察状況写真	名刺					
○	○	○					

【3】 石川県加賀市議会

住 所	加賀市大聖寺南町ニ41番地
電 話	0761-72-1111
視察案件	地域連携センターつむぎについて、子育て支援策について
期 日	平成28年8月4日（木） 9時45分 から11時45分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	加賀市議会
概 要	<p>(1) 地域連携センターつむぎ</p> <p>市町村合併により、加賀市民病院と山中温泉医療センターの2つの公立病院が存在することになった。一方で医師不足により救急患者に対する対応が難しく、患者の3分の1から4分の1を他市に搬送していた。このため2次救急をなんとかしたいという思いから病院合併を行った（28年4月完成）</p> <p>在宅医療・介護連携も強化するため地域包括支援センターのサブセンターを病院に設置した。従来は担当者が兼務で地域医療推進室も「総務部新病院建設</p>

室」だったが、地域医療推進に職員を専属で置くことで、医療・福祉・介護の3つの機能を院内だけで切れ目なく行える。

特徴

①運営を図る上での留意点として各組織が毎週金曜に係長以上でリーダー会を開催し、情報共有を図る。

②週1回地域医療在宅介護の連絡会を開いている。

③在宅医療コーディネーター（地域連携センター副センター長：看護師長）を配置している。コーディネーターは地域包括支援センターの主任ケアマネージャーと一緒に市内の在宅介護支援事業所の運営会議に顔を出すなど顔の見える関係を築こうとしている。また、病院内のメディカルソーシャルワーカーやケアマネージャーとの相談体制の充実を図っている。コーディネーターの発案で退院支援の係を6つの各病棟に配置し退院支援を強化している。

④地域連携センター長（脳神経外科の医師）を中心に在宅医療・介護連携を始めている。

今後の方向性として介護事業所と一緒に在宅医療・介護の連携を進めていく。8月終わりには関係者のワーキング会議を行い。有識者の講演会・研修会で連携を進めていく。

在宅医療・介護連携については、平成25年度から県医師会の力を借りて取り組んでいた。つむぎの開設を機にさらに強化を。地域医療推進室（3名）は仲介・橋渡しを進めていきたい。

（2）子育て支援策について

（市の概要）人口69,837人。高齢化率32.5%。28年度一般会計約310億円。民生費120億円。子育て支援関連48億円。前年度比1億8千万円増。

少子化の現状と公共施設マネジメントのため、公立保育園再編基本計画を策定し、全公立保育園を回っている。現在公立17園（私立13園）。平成32

	<p>年度に10園。平成36年度に最終的に7～8園（中学校区に最低1園）にしていく計画。</p> <p>全園児が10人程度の園（17園中4園）は、果たして保育がしっかりと行えるのかということを経済的・社会的な観点から地域へ出向いて説明している。</p> <p>放課後児童クラブは保護者会11か所。法人12か所。小6までの受入。指導員確保は難しい。保護者会の支援が課題。</p> <p>医療費の高校生年代まで助成。窓口負担なしで現物給付。28年度予算は201,125千円。</p> <p>第3子プレミアム応援は第3子以降の学童保育料・給食費無料化。</p> <p>子育て世代包括支援センター（妊娠期・出産期・子育て期を切れ目なく支援を）平成28年10月に保健センター内に開設予定。</p> <p>遊び場整備（保護者からの声）公共施設マネジメントと平行して、既存施設を活用し屋内に駐車場のある遊び場を。</p> <p>マイ保育園制度では出産から3歳まで、オムツ替えや関わり方の相談、リフレッシュのための一時保育等行っている。</p> <p>子ども育成相談センターは発達に支援が必要なお子様の包括的な支援をしている。従来の幼児教育相談室は小学校入学まで。センターは高校卒業まで。就学後も継続的な支援を。所長（保健師）、保育士5名、臨床心理士1名、教員OB（※特別支援学級教諭経験有）1名。まずは幼児教育相談室の卒業生の継続的な支援を。</p> <p>kaga みんな [子育て編] を8月広報で全戸配布する。市民向け積極的なPRを目的にしている。QRコードで詳細はポータルサイトへ誘導する仕組み。</p>
添付資料	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p> <p>○ ○ ○</p>